

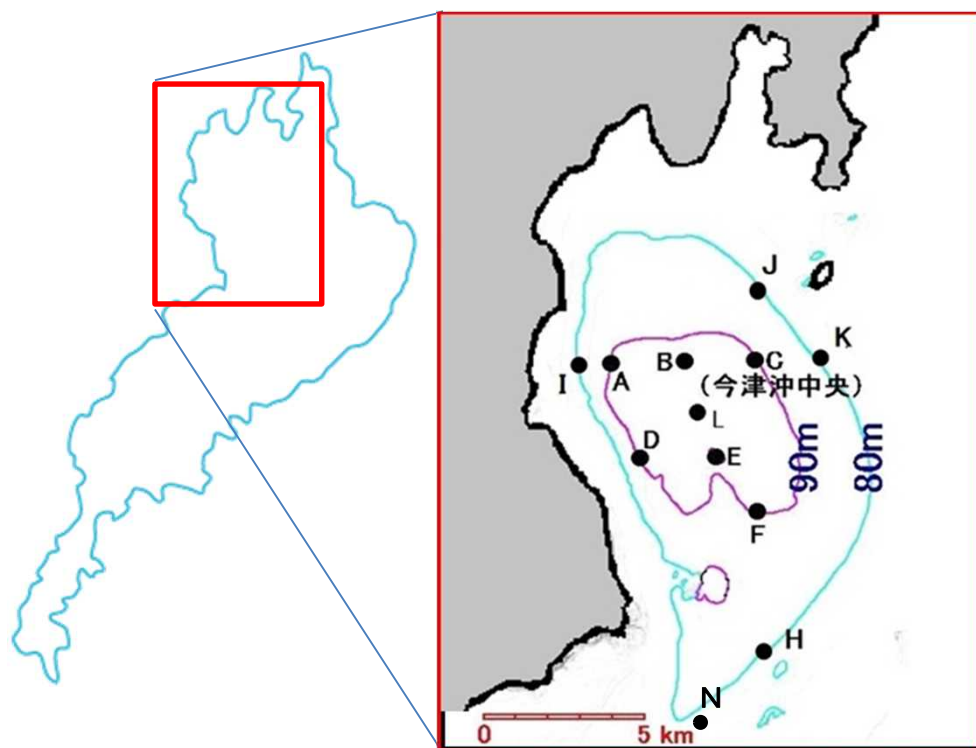
北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点：定期調査

A、B、C、D、E、F、L：詳細調査

K、H、I、J、N(水深80m)：詳細調査

湖底直上1mを調査

※底層DOの状況に応じて、地点数等を変更することがあります。

令和6年度～令和7年度の北湖底層DO調査結果（速報）

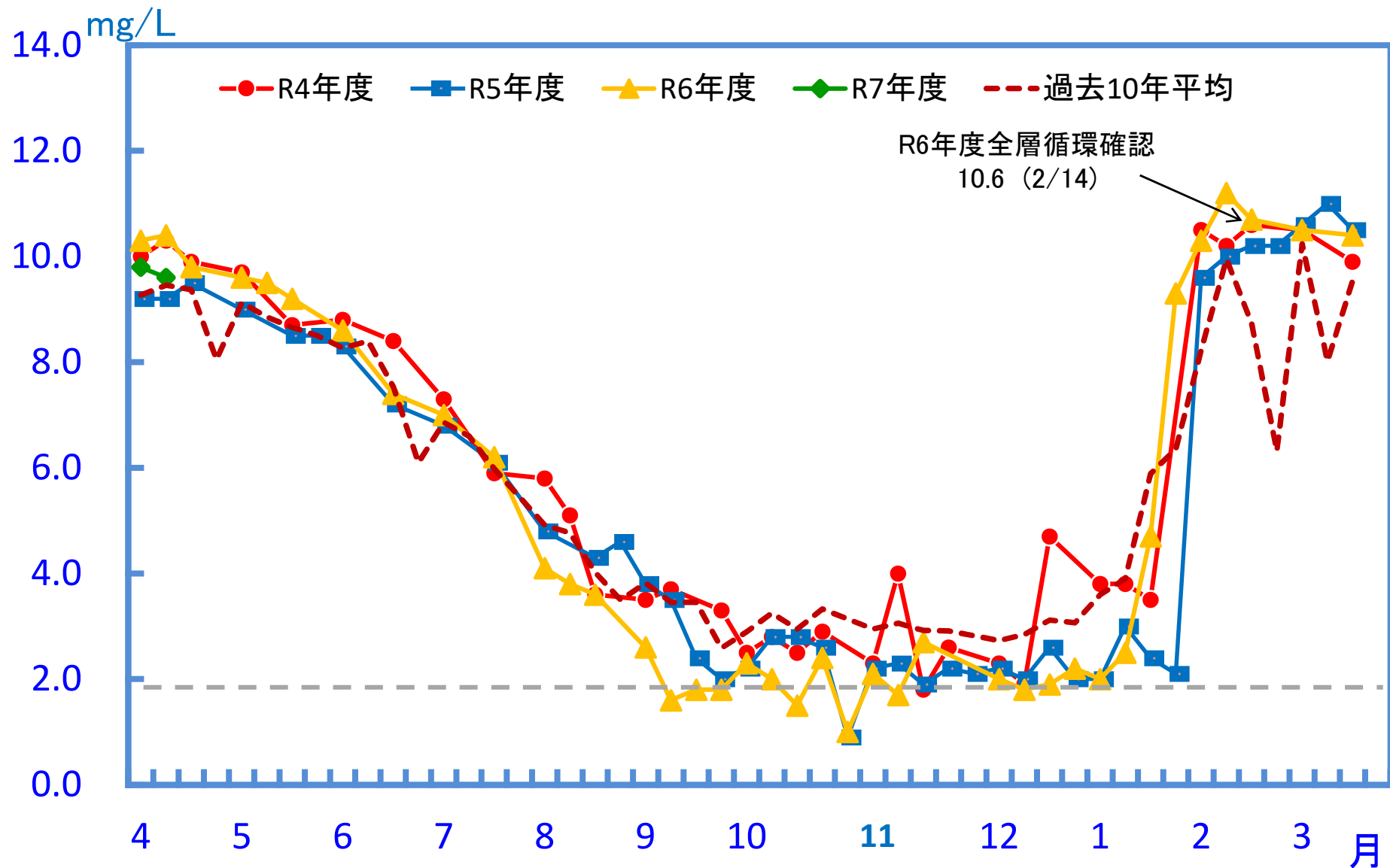
単位：mg/L

調査日 調査地点	1月					2月			3月		4月	
	1/6	1/14	1/20	1/27	1/28	2/3	2/10	2/20	3/10	3/18	4/7	4/14
A		4.0	3.9		5.0		10.7					9.5
B												9.6
C(今津沖中央)	2.0	2.5	4.7		9.3	10.3	11.2	10.7	10.5	10.4	9.8	9.6
D		4.6	3.7	9.6	4.1		10.7					9.6
E					4.5							9.5
F	3.3	3.8	3.9		9.9	10.1	10.1		10.3	9.9	10.1	9.6
L(第一湖盆中央)	3.4	3.0	3.5		8.9	10.4	10.6		9.9	9.6	9.3	9.6

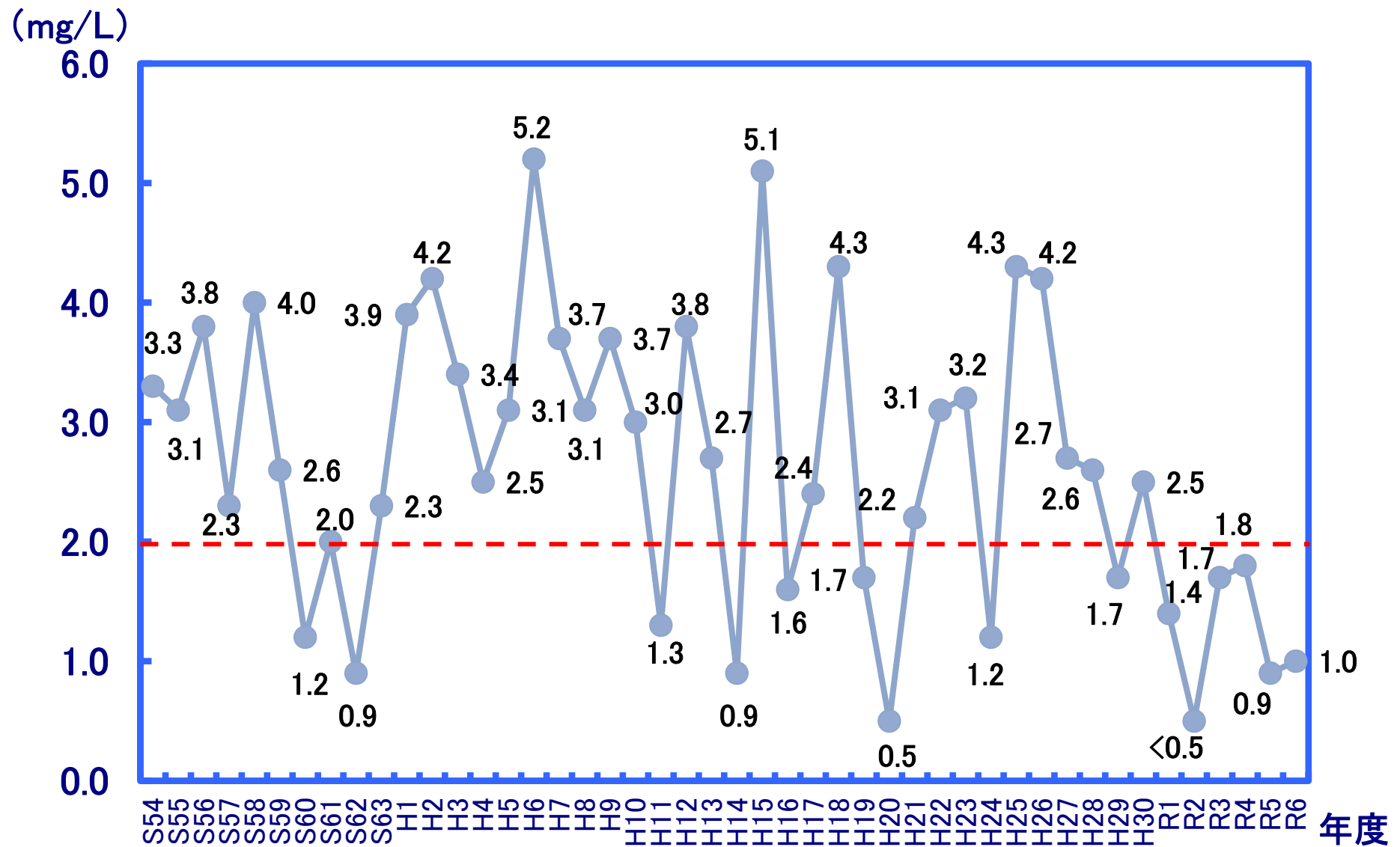
注1：表中の黄色部分は貧酸素状態（2.0mg/L未満）、オレンジ部分は無酸素状態（0.5mg/L未満）の結果を示します。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

C点における底層DOの経月変動



C点における底層DOの年度最低値



※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度

データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター